

2011.08.28 聖別会

IMMANUEL

インマヌエル
中目黒キリスト教会
聖別会マンスリー



2011年

岩上敬人著「パウロの生涯と聖化の神学」

<ローマ書における聖化の教え(2)> 「互いに愛し合い、受け入れ合う」

テキスト：

「兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。」（ローマ12:1）

1. この勧告の位置づけ

- ・ローマ1-11章で「福音」を解明したパウロは、12章から具体的な倫理的勧告を行う。
- ・12:1は、具体的な勧告の総論的纏めである。

2. 勧告の中心：ささげなさい

- ・旧約との関連：旧約の生贄が傷のない完全な動物であったと同じように、我々も自分自身を聖い、生きた供え物としてささげるべきである。「聖い供え物」となる根拠は、キリストの贖いが既になされているからである。
- ・6章との関連：6章では、自分を罪の奴隷として捧げないで、義の奴隷として捧げなさいとパウロは勧めている。12章以下では、それを具体化しなさいと勧める。

3. 勧告の範囲

倫理的勧告は3つの分野で示されている

- 1) 対兄弟同士：「愛には偽りがあってはなりません。・・・兄弟愛をもって心から互いに愛し合い、尊敬をもって互いに人を自分よりまさっていると思いなさい。」（12：9－10）
- 2) 対社会：「誰に対しても、何の借りもあってはいけません。但し、互いに愛し合うことについては別です。他の人を愛する者は、律法を完全に守っているのです。」（13：8）
- 3) 対弱者：「もし、食べ物の中で、あなたの兄弟が心を痛めているのなら、あなたはもはや愛によって行動しているではありません。キリストが代わりに死んでくださったほどの人を、あなたの食べ物の中で、滅ぼさないでください。」（14：15）
- 4) その究極は「（互いに愛することによって）心一つに・・・神をほめたたえるため」（15：6）である。

「パウロにとって、聖潔の具体的実践とは、教会の中で兄弟姉妹が、互いに違いを受け入れ合い、励ましあいながら一つの神の民となることである。パウロは決して個人的な聖潔を教えているのではない。聖潔とは、教会の中で、愛によって具体的に実践され、様々な違いを乗り越えて教会が一つとなることである。」（特に、異邦人とユダヤ人の反目が顕わになってきた当時の状況に鑑みて、この勧告は重要であった）